

病院 脳血管リハビリテーション科 医長
横田 千晶 (Chiaki Yokota)

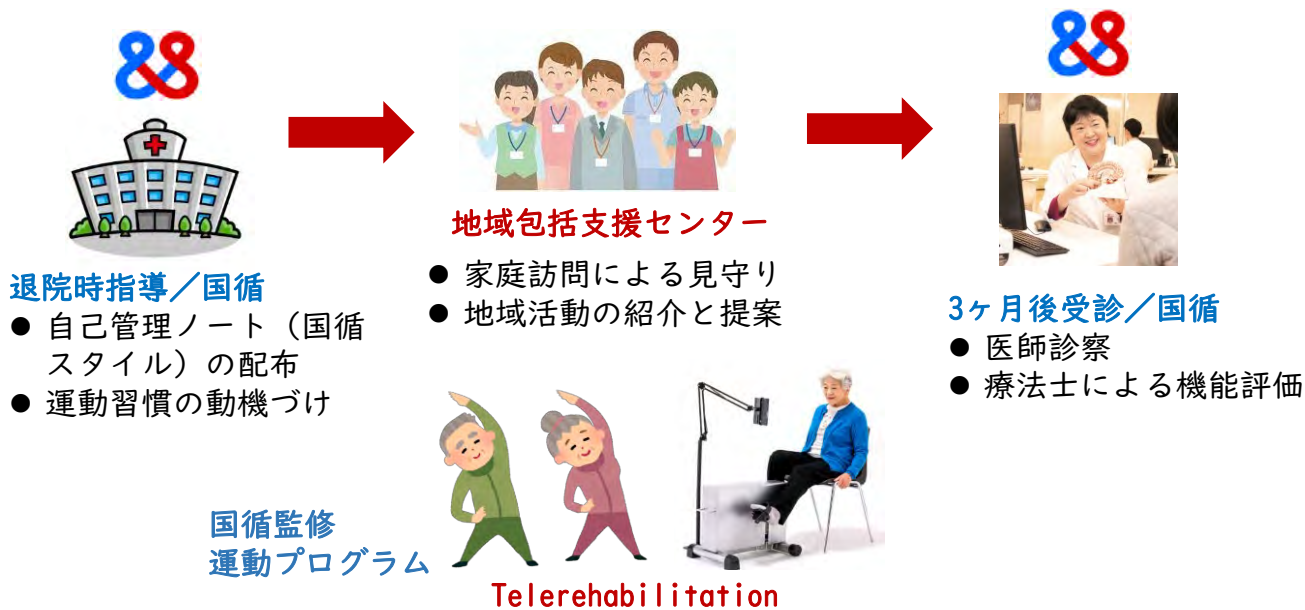


研究の背景・目的

脳卒中は、わが国における要介護原因疾患の首位であり、脳卒中の後遺症軽減、社会復帰の促進は重要な課題です。近年、急性期治療の進歩はめざましく、急性脳卒中患者の約半数が自宅退院となっています。一方、自宅退院後、再発だけでなく、転倒、活動性低下、抑うつ、社会からの孤立等の危険性が高くなることが知られていますが、生活自立度が高い自宅退院患者に対して、社会復帰のための在宅支援システムは整備されていません。

研究内容

本研究の目的は、急性脳卒中発症後、自宅退院となった患者が、退院後3ヶ月間、「フレイル予防ネット」に含まれる**地域包括支援センター**スタッフによる**家庭訪問**、**運動プログラムへの参加（オプション）**により、自己管理と運動習慣を維持することで、退院3ヶ月後の活動量、筋力、生活の質（QOL）の向上につながるのかを明らかにすることです。



期待される効果・応用分野

自治体、企業等と連携して、地域に特化した患者の療養に関連する医療、福祉、社会資源を効果的につなげて活用できるモデルを構築します。また、有効性の検証後は、全国に広く展開が可能で、我が国の健康寿命の延伸に寄与します。

将来的には脳卒中患者だけでなく、慢性心不全患者を含む循環器疾患患者を対象とします。

特許・共同研究等

提携例

- 吹田市、摂津市、茨木市
- 株式会社リモハブ（遠隔リハビリ）
- 株式会社Moff（オンラインフィットネス）

産連本部から一言

「フレイル予防ネット」の構築にご興味のあるパートナー（自治体、企業等）との連携を希望します。

▶ キーワード：急性脳卒中、フレイル予防、地域包括支援センター、社会復帰